

旭川医科大学 キャンパス マスタープラン2022

Campus Master Plan 2022



旭川医科大学
Asahikawa Medical University



引用元：Google社「Google マップ、Google Earth」

Asahikawa Medical University Campus Master Plan 2022

II ごあいさつ

本学は医師不足を解消し、道北・道東の地域医療に貢献すべく新設医科大学として1973年に旭川市に設立されました。1996年には看護学科も設立され、これまで、数多くの医師、看護職者を輩出し、地域医療を担うとともに、医学・医療の発展に寄与してきました。皆様のご協力のおかげをもちまして、本学は2023年11月に節目の50周年を迎えます。

旭川市は雄大な大雪山系、十勝連峰のふもとの盆地にある自然に恵まれた美しい街で、日本を代表する観光拠点の1つでもあります。また、本学キャンパスは旭川空港から車で十数分の位置にあり、本州へのアクセスも容易です。今後、旭川の魅力を十分に活かしながら、大学を発展させ、本学の使命を十分に果たしていきたいと考えております。

本学の医科大学としての教育・研究・診療機能を維持し、高めていくためにはキャンパス内施設の不断の整備および更新が欠かせません。このたび、キャンパスマスタープラン2016を継承し、第4期中期目標・中期計画に沿った形でキャンパスマスタープラン2022を定めました。

これまで本学では施設の一部の新営、増設、改修を随時行ってきましたが、2006年度の再開発から16年が経過した附属病院や開学以来ほとんど改修されていない学生の福利厚生施設をはじめ、キャンパス内の多くの施設で老朽化が進んでいます。

また、本プランにまとめられている通り、敷地利用、キャンパスの動線、駐車場、インフラなどの点でも多数の解決しなければならない課題が存在します。さらに、省エネルギーの推進も今後の重要な課題であると認識しています。

厳しい財政状況ですが、全学的に知恵を出し合って財源を確保するよう努め、適切に施設の整備と更新を進めていきます。また、施設マネジメントを徹底し、保有施設の有効な利用にも力を入れていく所存です。



学長（第8代）

西川 祐司

令和4年4月1日～

ごあいさつ

00.	目次	03
01.	キャンパスマスタープラン2022について	04
02.	教育理念・目標・ミッションの再定義	05
03.	基本方針・整備方針	07
04.	キャンパスの現状と課題	
-1	キャンパスの概要	08
-2	キャンパスマップ【医科大学、大学病院】	10
-3	施設の概要【現状と課題】	11
-4	敷地利用とゾーニング	17
-5	敷地利用の現状と課題	18
-6	動線の現状と課題	19
-7	駐車場の現状と課題	21
-8	インフラの現状と課題	22
-9	防災・危機管理の現状と課題	23
05.	アクションプラン	
-1	施設整備計画	24
-2	施設マネジメントの推進	28
-3	省エネルギーの推進	30
06.	職員宿舎【緑が丘団地】	
	職員宿舎の概要、利活用計画	32



II キャンパスマスタープラン2022について

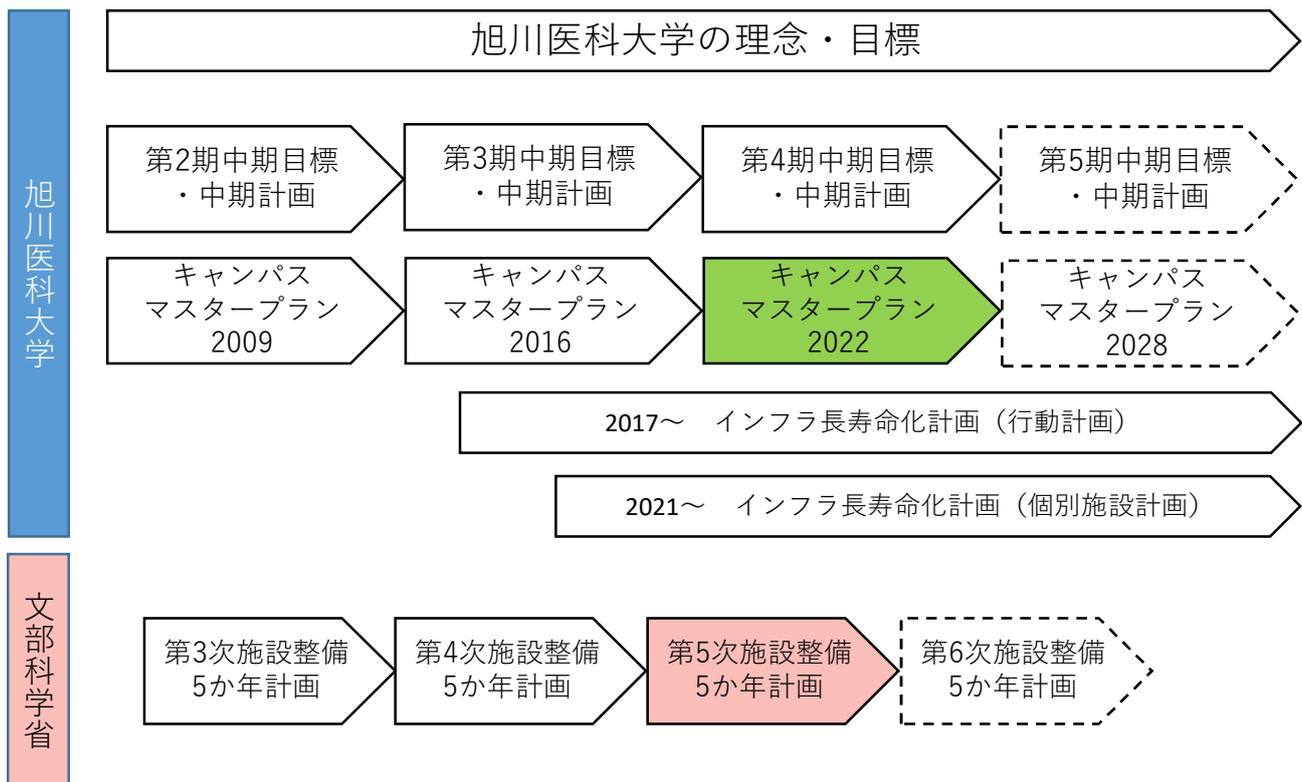
■目的

「旭川医科大学キャンパスマスタープラン2022」は、これまでの2016版を継承し、大学の理念・目標に基づき、学長のリーダーシップのもと、キャンパス整備に関する目標と、それを実現するための方針を定め、土地・施設を大学全体の共有財産として、長期間にわたり良好な状態で有効に活用し、教育・研究・診療が推進される環境と質の確保を図ることを目的とする。

■目標

旭川医科大学が定めた教育理念・目標を具現化するために策定した第4期中期目標・中期計画に沿いつつ、文部科学省の「第6期科学技術イノベーション基本計画」、「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」を踏まえ、質的向上への戦略的整備、地球環境に配慮した安全安心な教育・研究・診療環境を確保し、魅力あるキャンパスとして整備することを目標にする。

■位置づけ



■構成

基本方針に基づき整備方針、活用方針及び部門別計画を策定する。キャンパスマスタープランの実現に向けて、具体的な整備行動計画を策定し、「旭川医科大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」と連動し、施設整備、施設マネジメントを一体的に推進するものとする。

II 教育理念・目標・ミッションの再定義

■学部

教育の理念

豊かな人間性と幅広い学問的視野を有し、生命の尊厳と高い倫理観を持ち、高度な知識・技術を身につけた医療人及び研究者を育成する。また、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者を育てる。さらに、教育、研究、医療活動を通じて国際社会の発展に寄与する医師及び看護職者の養成に努める。

教育の目標

旭川医科大学は上記の理念の下にこれらを達成するため、次のような目標を掲げる。

1. 幅広い教養とモラルを養うことにより、豊かな人間性を形成する。
2. 生命の尊厳と医の倫理をわきまえる能力を養い、病める人を思い遣る心を育てる。
3. 全人的な医療人能力や高度な専門知識を得るとともに、生涯に亘る学習・研究能力を身につける。
4. 幅広いコミュニケーション能力を持ち、安全管理・チーム医療を実践する資質を身につける。
5. 地域・僻地住民の医療や福祉を理解し、それらに十分貢献しうる意欲と能力を獲得する。
6. 積極的な国際交流や国際貢献のための幅広い視野と能力を習得する。

■大学院

理念

1. 医療系大学院として、基礎研究と臨床研究の多様な取組を通し、医学・看護学の総合的な発展を図ります。
2. 自主・自律の精神を以て深く真理を探究し、真摯な研究活動を通して知の創造を目指します。
3. 多様で調和のとれた教育体系のもと、豊かな教養と高い人間性、厳しい倫理観を備えた、優れた研究者と高度の専門能力を持つ人材を育成します。
4. 開かれた大学院として、地域に根ざすと同時に世界との連携にも努め、医療福祉の向上と国際社会の調和に貢献します。

教育目標

博士課程[医学専攻]

秀でた独創性、豊かな人間性、厳しい倫理観を備えた、医学教育者・研究者の育成
地域社会の医療福祉の充実のために、指導的な役割を担える高度専門職業人の育成
国際社会で、医学・医療の取組を通し、その普遍的価値を共有できる人材の育成

修士課程[看護学専攻]

豊かな人間性、優れた研究能力、高い倫理観を備えた、看護学教育者・研究者の育成
看護専門職者として、優れた問題解決能力を発揮し、指導的役割を担える人材の育成
看護学の取組を通して、地域社会における保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成

ミッションの再定義

ミッションの再定義とは、各国立大学と文部科学省が意見交換を行い、研究水準、教育成果、産学連携等の客観的データに基づき、各大学の強み・特色・社会的役割（ミッション）を整理したものです。

これに基づき、本学としては、今後、大学の強みや特色を伸ばし、さらなる教育・研究・医療の発展、意欲ある医療人の育成など、その社会的役割を一層果たしていくための機能強化を図っていきます。

医学系

旭川医科大学の建学の理念に基づき、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医師・研究者等の養成を積極的に推進する。特に、道内の高校や医療機関と連携し、地域医療に対する強い意欲・使命感を持った学生の積極的な受入れを推進する。

北海道の医療支援の実績から発展した遠隔医療の研究、高齢化に対応した脳機能医工学研究の推進等、地域特性に対応した様々な研究を始めとする研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。

橋渡し研究支援拠点として、基礎研究成果の臨床への応用を強力に推進することにより研究成果の実用化を図り、日本発のイノベーション創出を目指す。

北海道と連携し、道内の地域医療を担う医師の確保及びキャリア形成を一体的に推進し、広大な北海道の医師偏在の解消に貢献する。

地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域災害拠点病院等として、地域医療の中核的役割を担う。

看護系

旭川医科大学の建学の理念に基づき、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に寄与するため、豊かな人間性と思考力、高い倫理感を有する看護職を育成する。特に、臨地実習までの学習成果を確認し客観的臨床能力試験（OSCE）を導入するとともに能動的学修空間を整備するなど、学生の意欲に応えるため、教育内容や学修環境を充実させ、教育効果を高める。

がん看護専門看護師を始め急激な高齢化に対応した高度専門的人材や指導的な人材を育成するとともに、看護職の復職支援等によって看護師不足に対応し、道北・道東を始めとする地域の医療へ貢献する。

遠隔看護の研究等の取組を活かし、広大かつ厳しい気候条件にある道北・道東を始めとする地域の住民の健康保持に貢献する。発展途上国の保健行政・母子保健における医療人材の育成の取組を活かし、国際性豊かな医療人を育成し、国際社会への貢献を目指す。

大学の基本的な目標（第4期中期目標期間）

旭川医科大学は、地域医療を担う人材育成という大学設置の原点を踏まえ、更なる教育・研究・医療等の発展、意欲ある医療人の育成、社会貢献等を果たすため、以下の基本的な目標を定める。

1. 豊かな人間性と基礎的能力をはぐくむ教育を通じ、研究力、実践的能力を持ち、国際的感覚を備えた意欲的な医療人を育成する。
2. リサーチマインドを涵養し、独創的で質の高い研究を推進する。
3. ステークホルダーとの共創により、地域社会の活性化を図る。
4. 地域医療の充実と先端的な医療の推進を図り、多職種協働による安全でレベルの高い医療を提供する。
5. 大学ガバナンス体制の点検・見直しを進め、安定した財務基盤を構築する。

II 基本方針・整備方針

2021年3月に文部科学省が公表した第5次国立大学法人等施設整備5か年計画では、国立大学等が「共創」の拠点「イノベーション・commons」へと転換し、その実現に向けた取り組みが求められている。また、ポストコロナ社会を見据えた教育研究環境への対応や、効率的な施設整備により老朽改善整備の加速化とともに新たなニーズに対応した機能強化を図ることがポイントに挙げられている。

基本方針

- ① 質の高い医学・看護学教育を提供し、優秀で誠実な医療者を育成する拠点
- ② 地域社会の活性化につなげるステークホルダーと共創するキャンパス
- ③ 災害に強く安心・安全かつ最善・最先端の医療を提供する拠点

整備方針

- 保有施設スペースを最大限有効活用し、学生活動・学習支援施設への転換を目指す老朽改善整備を推進する。
- 大学内で安心して過ごせるよう安全面に配慮したセキュリティ対策の整備、多様な利用者に配慮したバリアフリー対策の整備を推進する。
- 共創活動に重要なプロジェクトに対応するためのスペースマネジメントを推進する。
- 持続可能な大学経営とするために多様な財源の確保、施設総量の適正化（トリアージ）による維持管理費のコスト削減を図る。
- 予防保全を基本とし、定期的な点検により劣化状況やリスクを把握し、適切な維持管理を行う。
- インフラ長寿命化計画（行動計画・個別施設計画）を遂行し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減、予算の平準化を図る。

II キャンパスの現状と課題

04-1 キャンパスの概要

キャンパス敷地については、北海道の地理的中心部に位置し、とりわけ旭川市は道北の中核都市の位置付けをしており、旭川医科大学のキャンパスは道北地域の医療に寄与するためには良好な拠点である。

団地は大学及び病院を擁する緑が丘東団地と職員宿舎を擁する緑が丘団地の2団地である。

緑が丘東団地は、旭川市中心部から南東に約5kmの市街地に位置し、南側に旭川リサーチパーク、東側にリハビリテーション病院、西側に旭川高等看護学院、高等技術専門学院、中小企業大学校の他に高校、小中学校等の教育施設が立地しており、さながら学園都市の様相を醸し出しており、勉学には良好な環境といえる。

団地名	緑が丘東（大学）	緑が丘（職員宿舎）
敷地面積	231,828㎡	26,953㎡
建築面積	37,721㎡	2,934㎡
延べ床面積	123,063㎡	14,737㎡
棟数	31	7
用途地域	第2種中高層住居専用地域	第1種中高層住居専用地域
学生数	1,039人	—
教職員数	1,494人	—



引用元：Google社「Google マップ、Google Earth」

位置図

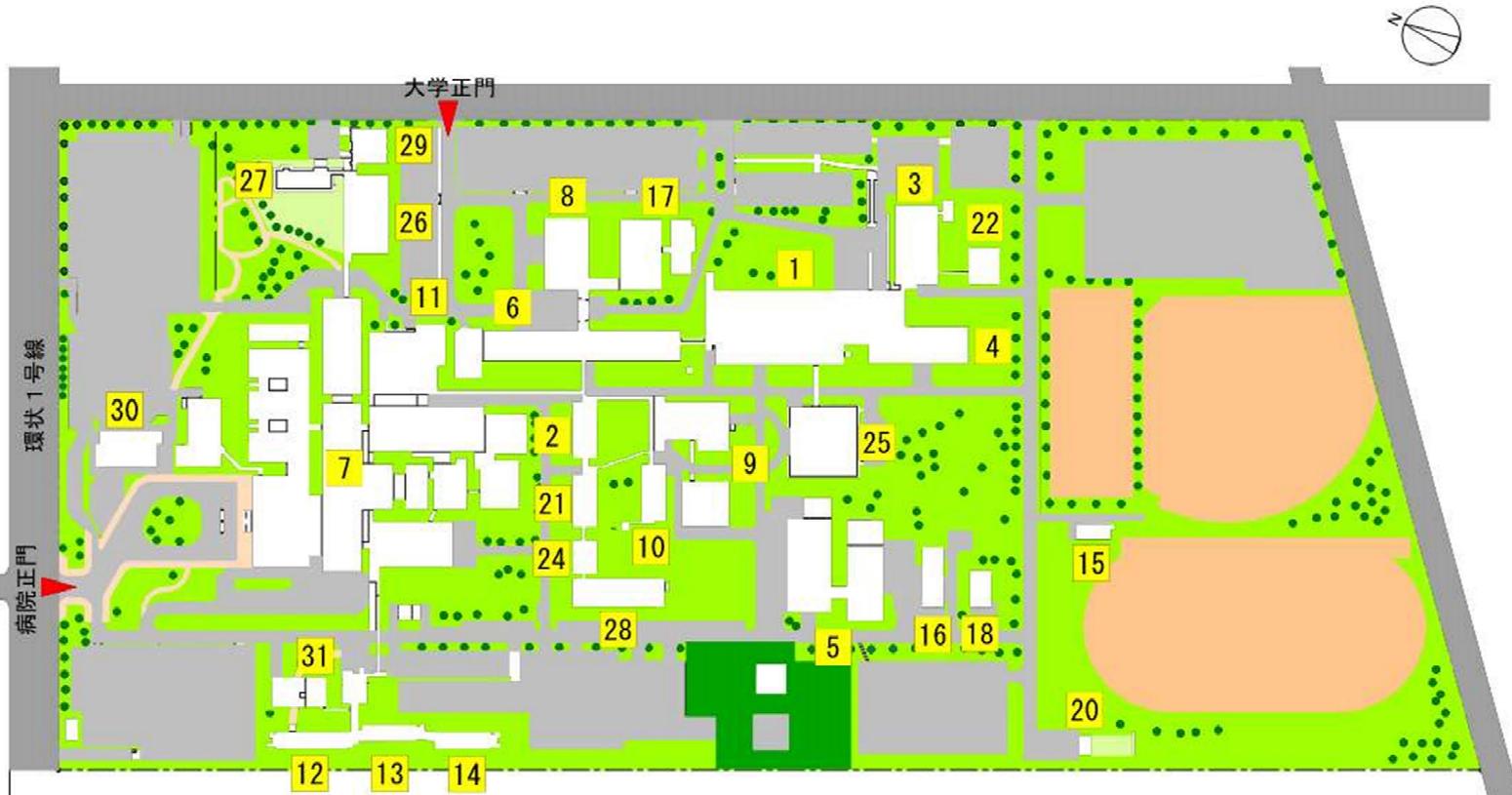


交通案内

JR	
札幌駅→旭川駅	所要時間/約1時間25分
新千歳空港駅→札幌駅→旭川駅	所要時間/約2時間20分
旭川電気軌道バス【旭川駅前(緑橋通り)27番のりばから乗車】	
71番 区大病院前行(緑東大橋経由)	所要時間/約35分
旭川空港からのバス【旭川電気軌道・ふらのバス】	
空港乗車→旭川区大前下車	所要時間/約30分
タクシー	
旭川駅→旭川区大前	所要時間/約15分
旭川空港→旭川区大前	所要時間/約20分

04-2 キャンパスマップ

緑が丘東団地 【医学部、病院】



* 建物番号は文科省「施設実態報告」を準用

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 講義実習棟 | 16 廃棄物処理施設 |
| 2 実験実習機器センター（1） | 17 図書館 |
| 3 体育館 | 18 動物実験施設（犬舎） |
| 4 福利施設 | 20 弓道場 |
| 5 中央機械室 | 21 実験実習機器センター（2） |
| 6 総合研究棟 | 22 武道場 |
| 7 附属病院 | 24 臨床研究棟 |
| 8 本部管理棟 | 25 看護学科棟 |
| 9 動物実験施設 | 26 共通棟（A） |
| 10 R I 研究施設 | 27 保育所 |
| 11 臨床講義棟 | 28 共用研究棟 |
| 12 看護師宿舎 1 | 29 共通棟（B） |
| 13 看護師宿舎 2 | 30 緑が丘テラス |
| 14 看護師宿舎 3 | 31 トリアージ施設 |
| 15 体育管理施設 | |

04-3 施設の概要【現状と課題】

1	講義実習棟	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1974	48	SRC	7,239	
		大規模改修年	2013	9	4	m ²	
		現 状			課 題		
		学年ごとの講義室が手狭である中で、新型コロナウイルス感染症対策を講じる必要がある。屋上テラス約半分の防水が未改修となっている。			福利施設改修計画にあわせて改善が可能であるかを検討する。防水改修については概算要求に盛り込み早期改修計画を推進する。		
2 ・ 21	実験実習機器センター	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1974	48	RC	3,652	
		大規模改修年	2018	4	3	m ²	
		現 状			課 題		
		大規模改修を終えているがトイレが未改修である。			トイレ改修については整備計画を策定する。		
3	体育館	体育施設	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1974	48	S	1,082	
		大規模改修年	—	—	1	m ²	
		現 状			課 題		
		経年45年以上であり非構造部材である天井耐震改修は完了しているが、大規模改修が必要な時期を迎えている。			災害時避難施設にも指定されており、大学の使命として早期に整備計画を策定する。		
4	福利施設	大学支援	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1974	48	RC	2,331	
		大規模改修年	—	—	2	m ²	
		現 状			課 題		
		経年45年以上であり大規模改修を計画していたが、補助金だけでなく多様な財源（自己資金含む）を含めた要求が必要であり予算化が困難である。			学生の要望、利用形態を十分把握した上で整備計画を策定し、同時に寄付金を募るなどの自己財源も合わせた予算要求を検討する。		
5	中央機械室	大学管理	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1974	48	RC	3,055	
		大規模改修年	—	—	2	m ²	
		現 状			課 題		
		経年45年以上であり大規模改修も視野に入るが大学内のエネルギー供給施設であり、使用しながらの改修は困難である。			段階的な性能維持改修も検討する必要がある。建物と同時にインフラ整備の計画が必要である。		

04-3 施設の概要【現状と課題】

6	総合研究棟	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構造	床面積
		建築年	1975	47	SRC	13,997	
		大規模改修年	2010	12	8	m ²	
		現 状			課 題		
		大学事業の規模が拡大してきた中でスペース不足となっている。			更なるスペースの有効活用に向けて共用スペースの見直しが必要。		
7	附属病院	附属病院	履 歴	西 暦	経 年	構造	床面積
		建築年	1976	46	SRC, RC	60,513	
		大規模改修年	2006	16	11-1	m ²	
		現 状			課 題		
		2006年度に再開発が完了し、既に16年が経過。特に設備が老朽化し維持費が増加傾向にある。また慢性的なスペース不足も発生している。			設備については2021年度よりESCO事業を開始しており、次期再開発計画へ繋がる無駄のない整備計画を推進する。		
8	本部管理棟	大学管理	履 歴	西 暦	経 年	構造	床面積
		建築年	1976	46	RC	2,142	
		大規模改修年	—	—	2	m ²	
		現 状			課 題		
		経年45年以上でありエレベーターがなく障害のある職員等への対応が困難である。外装も劣化が顕著に現れてきており省エネルギーの観点からも大規模改修を必要な時期である。			バリアフリー対策を筆頭に大学運営の中核施設にふさわしい整備計画を推進する。		
9	動物実験施設	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構造	床面積
		建築年	1976	46	RC	4,083	
		大規模改修年	2020	2	3	m ²	
		現 状			課 題		
		新営・大規模改修から数年が経過している。					
10	RI研究施設	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構造	床面積
		建築年	1976	46	RC	948	
		大規模改修年	—	—	2	m ²	
		現 状			課 題		
		経年45年以上であり大規模改修対象の施設となっている。			廃止の検討及び今後の研究活動を含めて、大学としての意向を確認した上で、整備計画を検討する。		

04-3 施設の概要【現状と課題】

11	臨床講義棟	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1976	46	R	1,590	
		大規模改修年	—	—	1	m ²	
		現 状			課 題		
		経年45年以上となるが外装と内部の一部は未改修となっており性能維持改修が必要である。また同時に学部～病院の渡り廊下も含めた整備計画の検討が必要。			渡り廊下改修については仮設計画及び既存流用が適正か否かを十分に検討したうえで予算要求を検討する。		
12 ・ 13 ・ 14	看護師宿舎	附属病院	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1976	46	RC	5,709	
		大規模改修年	1993	29	5	m ²	
		現 状			課 題		
		経年45年以上であり大規模改修の検討が必要な施設であるが、時代の変化と共に近年の入居率は著しく低下している。			今後の宿舎のあり方を再確認し、利活用を検討する必要がある。看護宿舎用途の縮小及び廃止も視野に入れ用途変更も含めた整備計画を検討する。		
15	体育管理施設	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1978	44	RC	160	
		大規模改修年	—	—	1	m ²	
		現 状			課 題		
		経年45年を迎える施設であり大規模改修を必要とする時期を迎えている。			整備計画には寄付金などの財源確保も同時に検討を行う。		
16	廃棄物処理施設	一般管理	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1976	46	RC	448	
		大規模改修年	—	—	1	m ²	
		現 状			課 題		
		経年45年以上であり大規模改修の対象となる施設であるが、一部のスペース以外は利用されていない。また他施設の電源設備が施設内にある。			廃止も視野に入れ施設内の電源設備の盛替え計画を検討した上で利活用計画を推進する。		
17	図書館	大学図書館	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1978	44	RC	2,735	
		大規模改修年	2014	8	2	m ²	
		現 状			課 題		
		増築、全面改修より数年が経過している。					

04-3 施設の概要【現状と課題】

18	犬舎 (Dog Farm)	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1978	44	RC	241	
		大規模改修年	—	—	1	m ²	
		現 状			課 題		
		経年45年以上であり、大規模改修が必要な時期である。			廃止及び今後の研究活動を含めて大学としての意向を確認した上で、整備計画の検討を行う。		
20	弓道場	体育施設	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1981	41	W	78	
		大規模改修年	—	—	1	m ²	
		現 状			課 題		
		経年20年以上であり性能維持改修が必要な時期を迎えている。所属部からは改修の要望が出されている。予算化が難しい区分の建物である。			整備計画には寄付金などの財源確保も同時に検討する。		
22	武道場	体育施設	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1983	39	R/S	424	
		大規模改修年	—	—	1	m ²	
		現 状			課 題		
		経年20年以上であり非構造部材である天井耐震改修は完了しているが、性能維持改修が必要である。			体育館と連動して活用されていることから合わせた整備計画を策定する。		
24	臨床研究棟	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1988	34	RC	1,318	
		大規模改修年	—	—	5	m ²	
		現 状			課 題		
		性能維持改修が必要な時期であるが工事中の移転先バッファスペースが不足している状況。エアコン未設置の部屋があり執務・研究に影響が出ている。			移転先及び移転費用（自己資金）をあわせて十分な協議を行い整備計画を推進する。		
25	看護学科棟	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	1998	24	RC	6,477	
		大規模改修年	—	—	6	m ²	
		現 状			課 題		
		経年20年以上となり段階的な性能維持改修計画を検討する必要がある。			移転先及び移転費用（自己資金）をあわせて十分な協議を行い整備計画を推進する。		

04-3 施設の概要【現状と課題】

26	共通棟 (A)	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	2006	16	S	1,047	
		大規模改修年	—	—	1	m ²	
		現 状			課 題		
		プレハブ構造で耐用年数が短いため、将来的に別のスペースに部署及び使用者を移転させる検討が必要。			存続については時期病院再開発の計画にも影響することが懸念される。長期的なスパンでの整備計画を推進する。		
27	保育所	大学管理	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	2006	16	S	294	
		大規模改修年	—	—	1	m ²	
		現 状			課 題		
		現状では改修を要する建物ではないが、将来の利用計画を含めて検討が必要となる。			プレハブ構造で耐用年数が短いため、今後の運用方針を確認し整備計画を検討する。		
28	共用研究棟	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	2008	14	S	1,500	
		大規模改修年	—	—	2	m ²	
		現 状			課 題		
		当初は工事中の移転先であったが現状では常時使用となり移転先としては機能しない。プレハブ構造で耐用年数が短いため将来的に移転を検討する必要がある。			学内のスペース有効活用を推進し、改修時の移転先として機能するよう学内調整を行う。		
29	共通棟 (B)	教育・研究	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	2012	10	S	1,078	
		大規模改修年	—	—	3	m ²	
		現 状			課 題		
		エレベーターが未設置であり、バリアフリーの観点からは整備が必要な状況である。			整備計画に盛り込むこととする。		
30	緑が丘テラス	大学管理外	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
		建築年	2018	4	S	599(貸与部)	
		大規模改修年	—	—	2	m ²	
		現 状			課 題		
		定期借地権契約は2038年まで。契約終了時に更地返却もしくは建物存続利用を選択することになる。			大学の所有ではないため整備が必要な場合は事業者と協議を進める。		

04-3 施設の概要【現状と課題】

31	トリアージ施設	附属病院	履 歴	西 暦	経 年	構 造	床面積
			建築年	2021	1	S	213
			大規模改修年	—	—	1	m ²
				現 状		課 題	
			新営から間もない状況である。		新型コロナが終息したあとに有効に利活用できるよう検討する。		

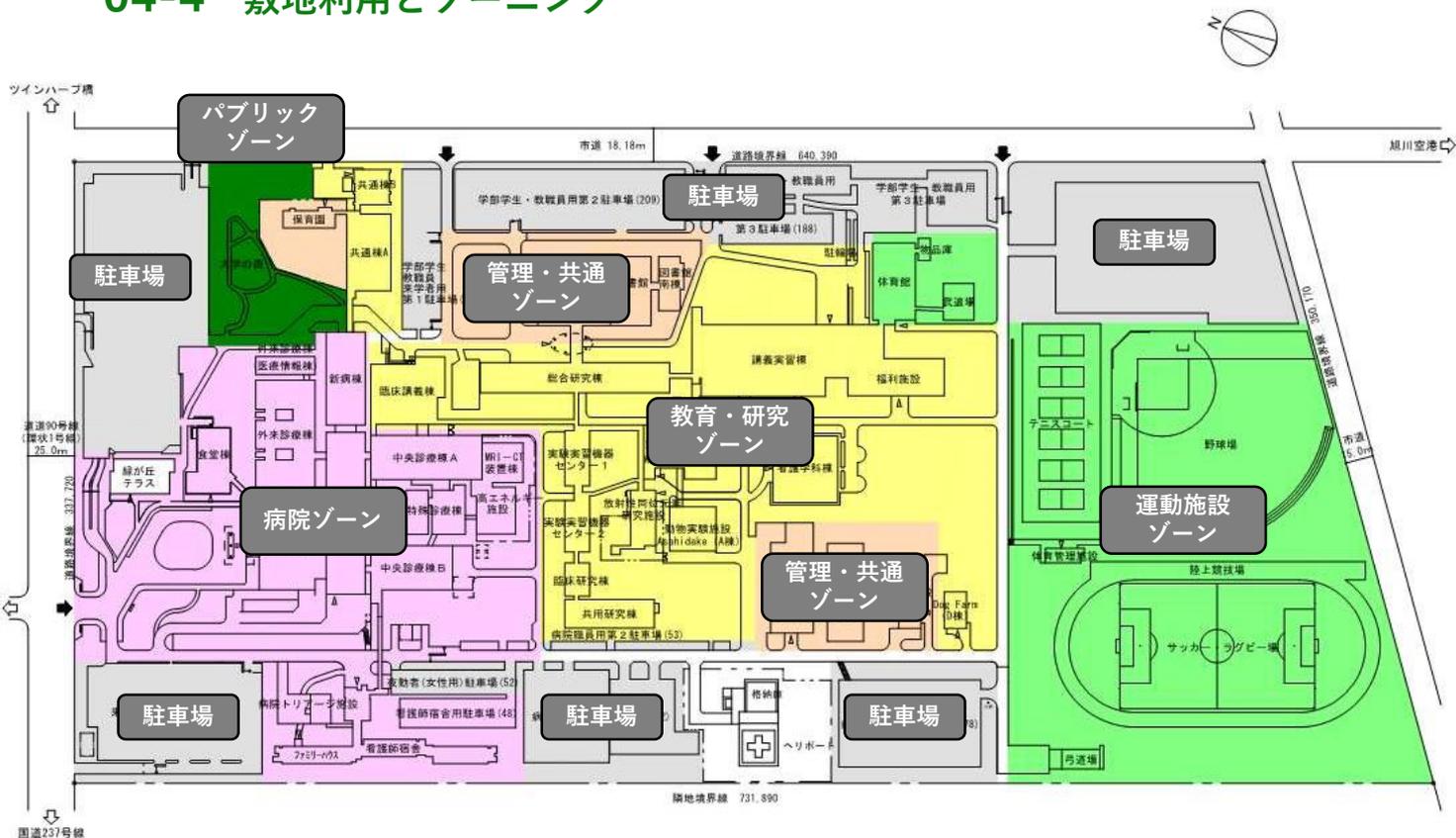
■ 現状

- ・ 建物は最も古いもので1974年新営より48年が経過しているが、改修計画が進み病院の再開発を始め、総合研究棟、講義実習棟、実験実習機器センター、動物実験施設など改修が進み、経年による老朽化した未改修建物はRⅠ研究施設、福利施設、本部管理棟、体育施設等を残している。
- ・ 大学内施設の耐震化率は100%であり、耐震改修は完了している。また、非構造部材の耐震対策も完了している状況である。
- ・ 施設実態報告での本学の老朽化率は17.0%となっており、同規模医科大学と比較しても改修状況に大きな遅れがある状況ではない。「教育・研究」部門の建物については概ね大規模改修が完了しているが、「大学支援」、「体育施設」及び「管理施設」などに属する建物については、経年45年を超えている状況にあっても未改修の状況となっている。
- ・ 病院については再開発完了から16年が経過しており、老朽化が進行し、維持管理費が年々増加傾向にある状況である。
- ・ 学内では大学事業の拡大に伴い大学、病院を問わずスペース不足が慢性化している状況となっている。

■ 課題

- ・ 学生のキャンパスライフに欠かせない福利施設の整備が遅れている。学生に向けたアンケート調査結果においてもそれは顕著に表れている。またエレベータが未設置であることなどバリアフリーにも対応していないことから早急に整備が必要な状態である。
- ・ RⅠ研究施設は老朽化、陳腐化が著しいことから以前より大規模改修を整備計画に盛り込んでいたが、改修には多額の費用を要することから将来を見据えた研究施設の必要性、規模等を改めて検討する必要がある。
- ・ 屋外運動施設は、老朽度、活用度から緊急性を考慮して整備をしていかなければならない。
- ・ 本部管理棟の老朽化と陳腐化が著しい状況である。大学運営において中核的な役割を持ち、多くの学内者及び来学者が利用する施設であるにもかかわらずエレベータの設置が無い等、バリアフリー対策を初めとした大規模改修の整備が急務の状態である。
- ・ 看護師宿舎の老朽化も進む中で入居率低迷が続いていることから、宿舎用途の縮減、多用途への変換など利活用の検討が必要な時期である。
- ・ 廃棄物処理施設は用途を廃止しているが、既存の設備機器が残存しており、その撤去を含めた取り壊し又は転用が必要である。

04-4 敷地利用とゾーニング



配置図

□教育・研究ゾーン

- ・総合研究棟
- ・臨床研究棟
- ・共用研究棟
- ・臨床講義棟
- ・福利施設（保健管理センター）
- ・学内共同施設～実験実習機器センター
- 動物実験施設
- R I 研究施設
- ・講義実習棟
- ・看護学科棟
- ・共通棟A・B

□管理・共通ゾーン

- ・本部管理棟
- ・中央機械室
- ・廃棄物処理施設
- ・図書館
- ・保育所

□運動施設ゾーン

- ・体育館
- ・体育管理施設
- ・野球場
- ・サッカー、ラグビー場
- ・武道場
- ・弓道場
- ・陸上競技場
- ・テニスコート

□病院ゾーン

- ・玄関棟
- ・病棟
- ・特殊診療棟
- ・高エネルギー施設
- ・病院食堂棟
- ・医療情報棟
- ・外来診療棟
- ・中央診療棟A・B
- ・MRI-CT装置棟
- ・臨床講義棟
- ・看護師宿舎
- ・トリアージ施設

□パブリックゾーン

- ・緑地
- ・大学の森

□駐車場

- ・来院者駐車場
- ・看護師宿舎駐車場
- ・学生教職員駐車場
- ・病院職員用駐車場

04-5 敷地利用の現状と課題

■現状

- 緑が丘東団地の敷地全体面積は231,828㎡、建ぺい率16%（法60%）容積率53%（法200%）、第2種中高層住居専用地域内にある。
- キャンパスは南北に長い敷地で、大きくは北側から順に病院ゾーン、教育研究ゾーン、運動施設ゾーンの3つに分けられ、病院ゾーンの西側に居住ゾーン（看護師宿舎）、教育研究ゾーンの東西に管理共通ゾーンを設けて、教育研究と病院の有機的な結合を図っている。
- 学部へのアプローチは東側公道（幅員18m）からとなっており、病院へのアプローチは路線バスが乗り入れている北側公道（幅員25m）からとなっている。
- 周辺道路から主要施設の間には、駐車場や緑地を設けることで、周辺環境の変化による影響を最小限に抑えている。
- 将来需要に対応するための用地確保については、教育研究ゾーンに1,800㎡と3,300㎡の用地、運動施設ゾーンに10,000㎡の用地を確保している。
- 本学のキャンパスは、旭川市から避難所に指定されている。

■課題

- 地域・社会との連携等が求められる中で、学外の方が気軽に利用できるような施設やスペースが不足している。また南側にはアプローチがなく、今後の大学利用者の拡大も視野に入れ、整備計画の検討が必要である。
- 北側にある「大学の森」はパブリックスペースとして、市民、近隣、来院者の憩いの場として整備されているが、利用者は多くない。
- 救急外来へ導線がスムーズではなく改善が望まれている。
- 現状の病院周辺の課題解決には将来の病院再開発を考慮し、長期的な計画を策定する必要がある。
- 病院外来者用駐車場は2018年に増設されたことにより慢性的な駐車場の不足が解消された。しかし教職員及び学生用駐車場の不足は解消されておらず、路上駐車が問題とされている。施設整備と運用面の両方をあわせて検討する必要がある。
- 運動施設ゾーン東側の将来用地は駐車場として整備することを考慮する必要があるため運動施設ゾーンから外すことが考えられる。

04-6 動線の現状と課題

■ 課題

①主要動線計画

- ・駐車場の管理は、医学部・病院共ゲート管理しており、今後も継続する。
- ・学部及び病院では一部、歩車道分離が明確になっていないため、安全に通行するための道路整備について検討する。

②歩行者動線

- ・学部正門から臨床講義棟までの間について、歩車道分離がなされていなく通行に支障が考えられるため歩道の設置を検討する。
- ・病院正門から病院玄関までの歩行者動線が車動線と交差しており、対策が必要である。

③地域住民を意識した動線

- ・本学は避難場所になっているが、南側から通用道路がないことは避難者受入に支障を来すことが考えられる。また、周辺の交通量を調整するためにも今後、整備を検討する。

④サービス用車両動線

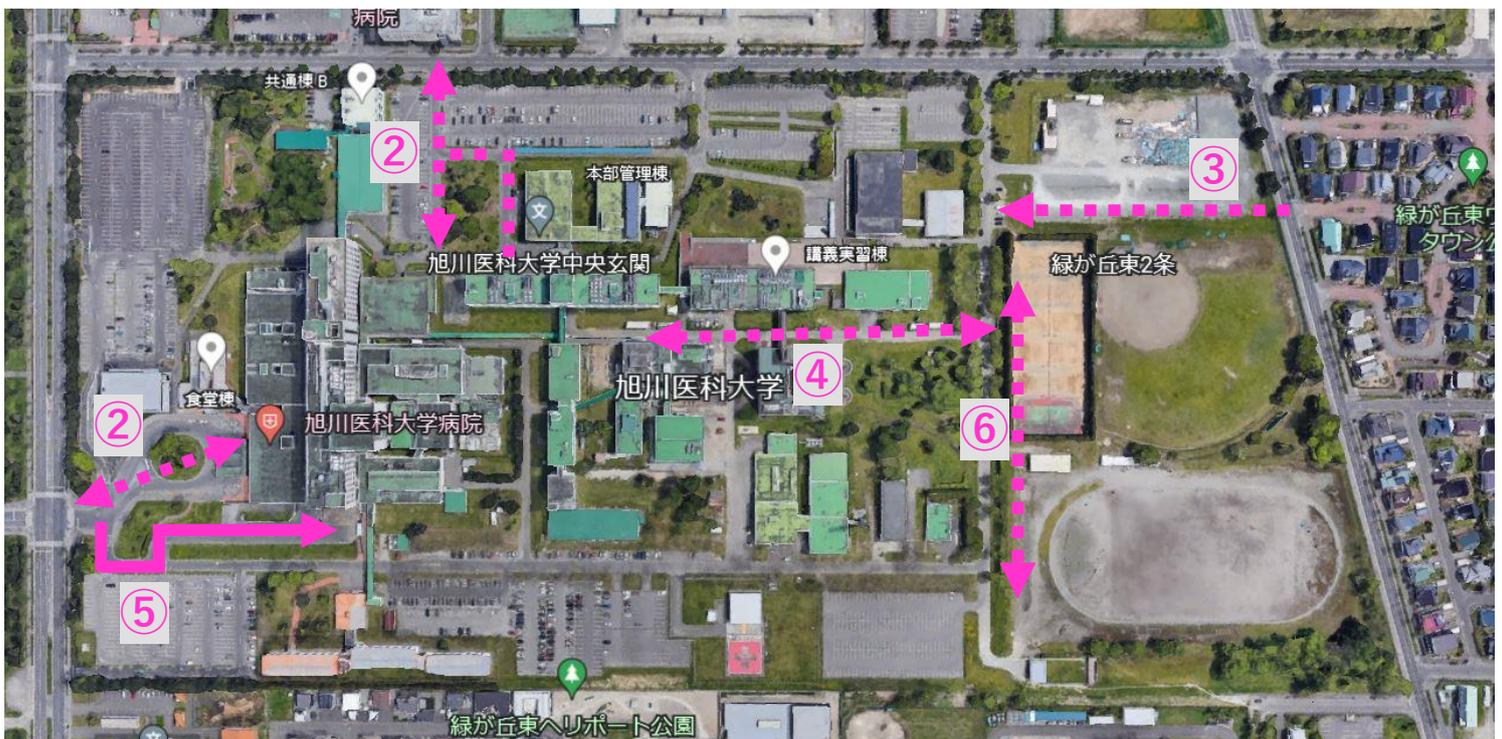
- ・メイン車両動線から、メンテナンス・物品搬入、廃棄物等の出入り口となる各建物のバックヤードにつながるように計画する。
- ・看護学科、解剖室周辺の道路が狭く交通に支障がある。

⑤救急車両の動線

- ・病院正門から、救急外来へ向かう救急車両の動線がスムーズではなく改善の検討が必要である。

⑥路上駐車による交通障害

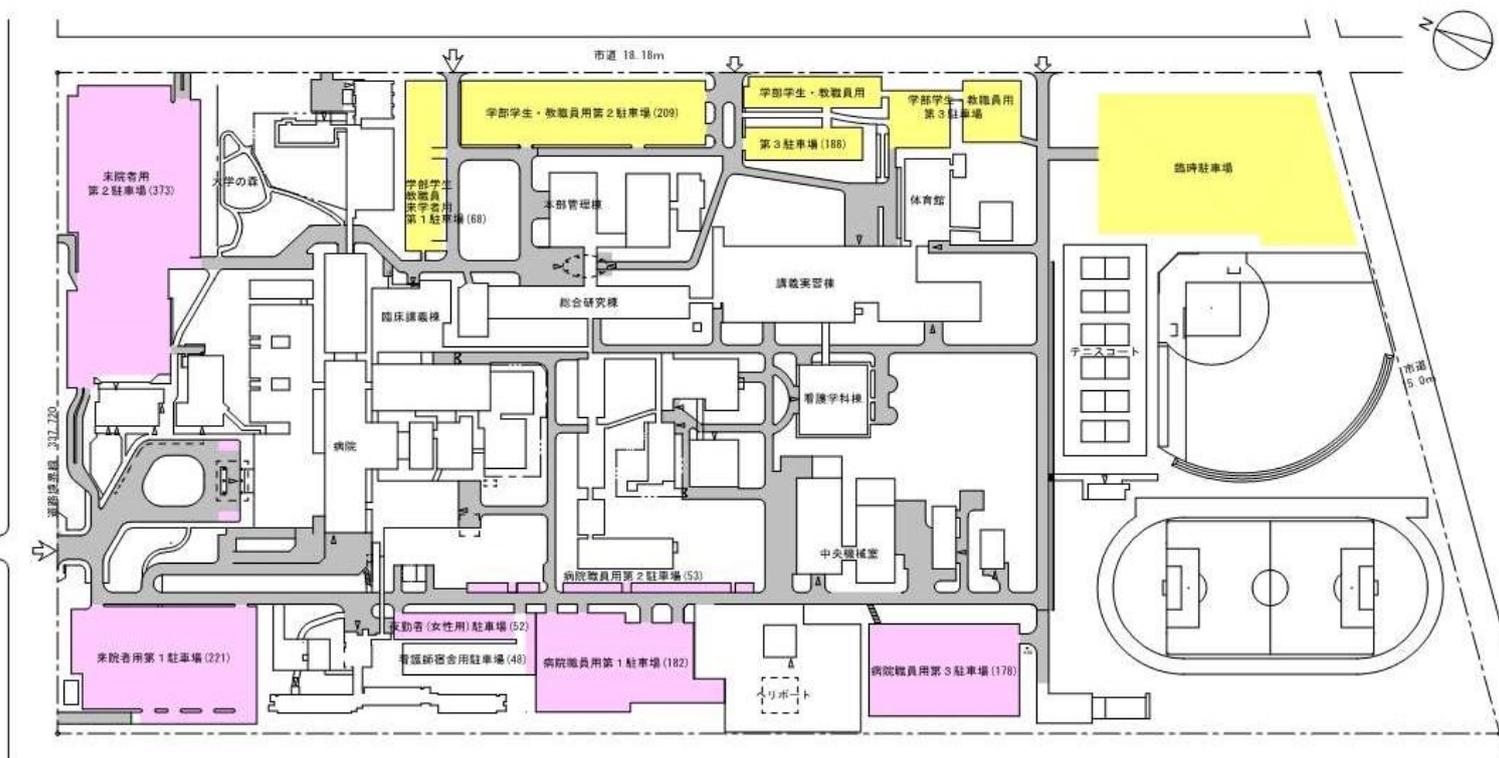
- ・日常より路上駐車が絶えず、サービス車両の通行時に支障が発生するため、駐車場の運用及び整備の両面から検討する。



引用元：Google社「Google マップ、Google Earth」

キャンパス配置図

04-7 駐車場の現状と課題



駐車場 配置図

凡例

病院系	駐車場
学部系	駐車場

■現状

- ・敷地の外周に駐車場を配している。
- ・学部側駐車場は、学生・教職員、病院職員に分けてそれぞれゲートによる管理をしている。
- ・病院側はゲート管理している来院者用駐車場を2か所設けている。
- ・入構車両、駐車場はゲート管理とし基本的に有料化している。
- ・冬季間は雪の影響で駐車可能台数が減少するため特に不足と感じやすい。
- ・運動施設横の路上駐車は常時30台程度となっている。
- ・病院系教職員用駐車場は発行枚数に対して駐車可能台数が半分以下となっており9:00~15:00では不足状態となっている。

■課題

- ・大学内において病院系の駐車場は慢性的に駐車可能台数が不足している。これは路上駐車の原因にもなっており、サービス車両の通行時に支障が発生している。
病院系駐車場を改善することが一つの解決策となっているが、安易な駐車場の増設はキャンパス全体の将来計画にも影響することから、施設整備による改善だけではなく、運用面及び利用者数を減らす工夫なども視野に入れキャンパス全体のバランスを考慮し計画を推進する。

04-8 インフラの現状と課題

■現状

①電気

- ・現在は、北海道電力旭川変電所から学部・病院用として特別高圧33 kVで受電し、契約電力3,400 kWの1回線で運用している。
- ・また、看護師宿舎用として高圧6 kVを引き込んでいる。
- ・発電機設備は非常用発電機2,000KVA 1台、常用発電機1,200KVA 1台を設置している。2020年度に常用発電機を更新し、発電時の廃熱利用するコージェネレーションシステムとして24時間運転している。
- ・非常時は、非常用・常用発電機の計2台で電源を確保することとしている。
- ・2009年より図書館屋上に30 kWの太陽光発電装置を設置した。年間約25,000kWhを発電している。

②通信

- ・電話設備は2014年にデジタル交換機の更新を行った。
- ・キャンパス情報ネットワークについては、学内LAN、院内LAN（病院総合情報システム）が構築されている。

③給水

- ・飲用水は市水と地下水（専用井戸1本）の2つを供給源とし、受水槽（480 t）で混合して各建物に供給している。地下水は2016年から地下水浄化装置により供給している。
- ・雑用水は専用井戸2本より雑用水用受水槽（750 t）に入り、各建物へ供給している。

④排水

- ・構内排水管は、雨水系統と汚水系統に分流して公共下水道に放流している。
- ・2016年12月から下水道量メーターを設置した。
- ・R I排水・剖検排水は、それぞれ処理された後に排水している。
- ・実験用廃液は放流禁止とし、回収の上、専門業者による処分としている。

⑤ガス

- ・旭川ガス（株）から都市ガス（13A・45MJ/m³N）の供給を受けてボイラー（9基）及び常用発電設備及びガスヒートポンプエアコンの燃料としている。
- ・地中埋設管は、耐震性が有り腐食しないポリエチレン管への更新が完了している。

■課題

インフラについては、病院を有するキャンパスであることから、災害に強く、確実に供給できるものとしなければならない。

このため、別途「旭川医科大学インフラ長寿命化計画」に基づき整備を進め、状況に応じて見直すこととする。

04-9 防災・危機管理の現状と課題

■現状

①耐震化

建物構造の耐震化

- ・全ての建物が耐震性能を満たしている。
- ・非構造部材の耐震化については現基準に基づき、対象となる箇所は措置済である。（体育館、武道場、玄関棟、臨床講義棟）

②災害拠点病院として機能強化

○電力

- ・非常用発電機を設置しており、3日分の稼働（機能の一部）を確保している。
- ・ガスの供給が可能であれば非常用発電機に加え、常用発電機の稼働が可能。

○電話

- ・衛星携帯電話を有している。
- ・ドクタースマホによる通信手段（通話、LINEWors）

○給水

- ・飲料用については井水浄化システムが稼働であれば供給可能。
- ・雑用水については井水ポンプが稼働であれば供給可能。

○備蓄

- ・非常食3日分を含め、非常用品を備蓄した仮設倉庫を有している。

③減災対策

・転倒防止

安全パトロールにより、大型ロッカー等の転倒防止対策を推進している。

・ガラス飛散防止

体育館のみ措置済

・ポータブルボンベ

緊急時の対応として各病棟に備え付けている。

・安全点検

法令で定められている点検の他、安全パトロール、安全自主点検、防火自主点検などを行っている。

■課題

②災害拠点病院として機能強化

○電力

- ・特別高圧33kV 1回線で、予備回線がない（電力会社のインフラ故障した場合、発電機のみとなる）

○給水

- ・停電時またはポンプ破損時の対応。

③減災対策

- ・防災意識に個人差があり、意識の向上が望まれる。

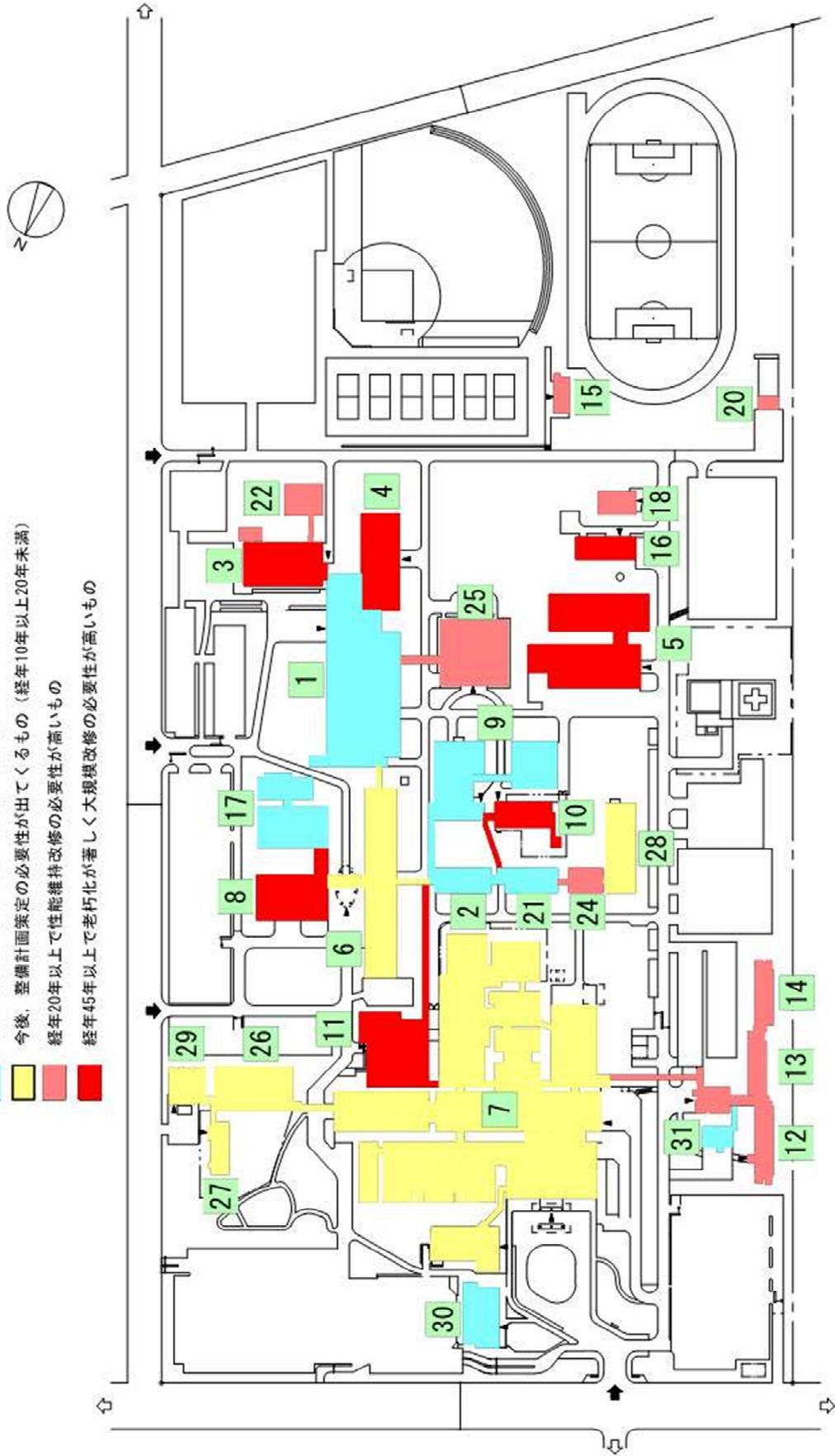
II アクションプラン

05-1 施設整備計画

■施設の整備状況（経年数）【2022現在】

現状の老朽化状況

- 改修の必要性が少ないもの（経年10年未満）
- 今後、整備計画策定の必要性が出てくるもの（経年10年以上20年未満）
- 経年20年以上で性能維持改修の必要性が高いもの
- 経年45年以上で老朽化が著しく大規模改修の必要性が高いもの



* 建物番号は文科省「施設実態報告」を準用

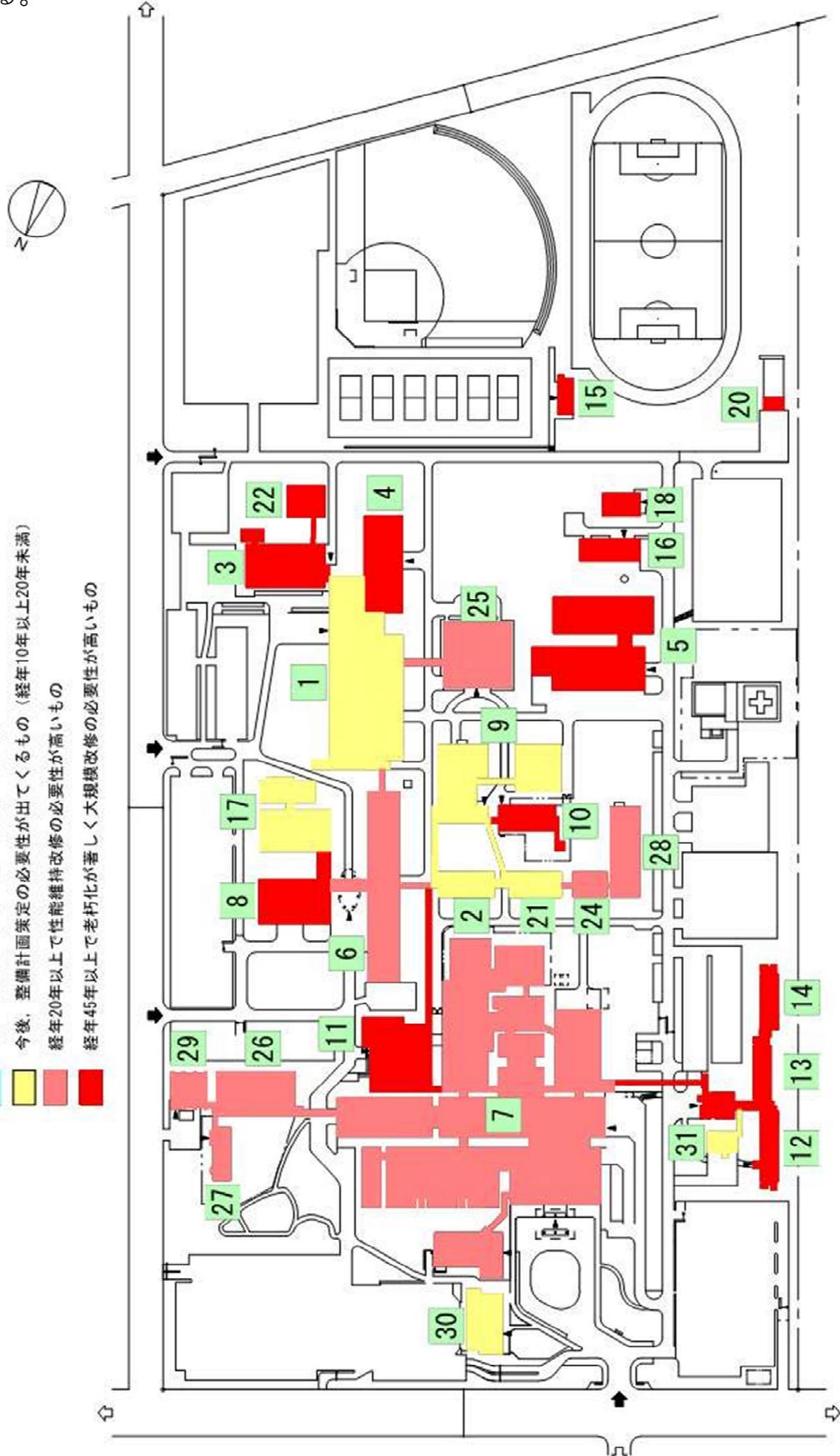
05-1 施設整備計画

施設整備計画についてはこの老朽化状況を見据え、基本方針、整備方針に基づき施設の課題を解消し、老朽改善整備の加速化とともに新たなニーズに対応した機能強化を図るものとする。

■施設の整備状況（経年数）【10年後 2032年】

10年後の老朽化状況

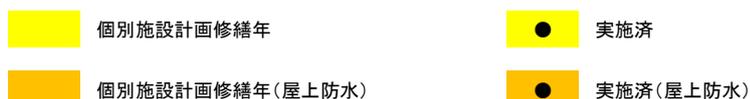
- 改修の必要性が少ないもの（経年10年未満）
- 今後、整備計画策定の必要性が出てくるもの（経年10年以上20年未満）
- 経年20年以上で性能維持改修の必要性が高いもの
- 経年45年以上で老朽化が著しく大規模改修の必要性が高いもの



05-1 施設整備計画

2021年度に策定された「第5次国立大学等施設緊急整備5か年計画」及び第4期中期目標・中期計画に沿った施設整備を計画する。また、今後の老朽化状況、大学の情勢等によっては施設整備計画の内容を更新することも想定する。

施設の維持管理については、建物別修繕計画書に基づき、予防的な施設の点検・保守・修繕を実施している。また、2016年度に「インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定、2019年度に「インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」を策定した長期修繕計画に基づき、修繕等を実施する。

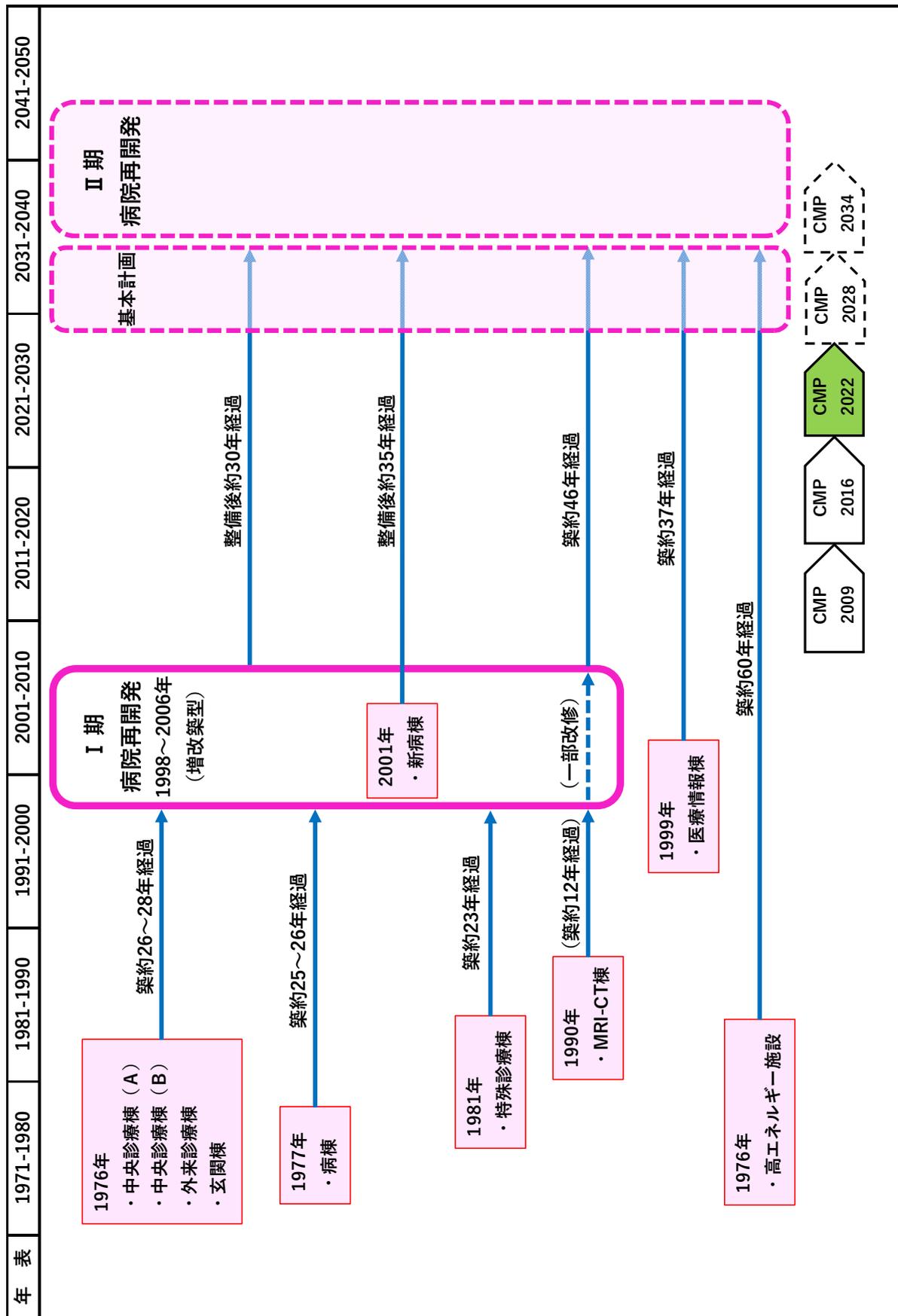


2022年12月

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
建 物															
学 部															
講義実習棟															
実験実習機器センター (1)															
体育館															
福利施設															
中央機械室															
総合研究棟															
本部管理棟															
動物実験施設K棟															
動物実験施設A棟															
RI研究施設															
臨床講義棟															
体育管理施設															
廃棄物処理施設															
図書館															
図書館 (増築)															
犬舎															
危険物保管庫															
弓道場															
実験実習機器センター (2)															
武道場															
物品庫															
臨床研究棟															
看護学科棟															
病 院															
病棟															
中央診療棟 (A)															
中央診療棟 (B)															
玄関棟															
外来診療棟															
新病棟															
特殊診療棟															
新特殊診療棟															
高エネルギー施設															
MRI-CT装置棟															
医療情報棟															

05-1 施設整備計画

旭川医科大学病院 整備計画 (ロードマップ)



05-2 施設マネジメントの推進

旭川医科大学の理念・目標の実現のために保有施設を戦略的に運営し、総合的かつ長期的視点から教育研究活動に対応した適切な施設を確保・活用することを目的とする。

■現状

旭川医科大学では法人化以後、教育研究の強化や病院事業の強化に伴い保有面積が漸増しており、それに伴いランニングコストも増大している。また、施設の老朽化に起因するエネルギーコストの増大、エネルギー価格の上昇などそれらを含めた維持管理費の増大は大学経営に直結するため、今後の施設マネジメントは経営者層のリーダーシップによる戦略的かつ積極的な取り組みが不可欠である。

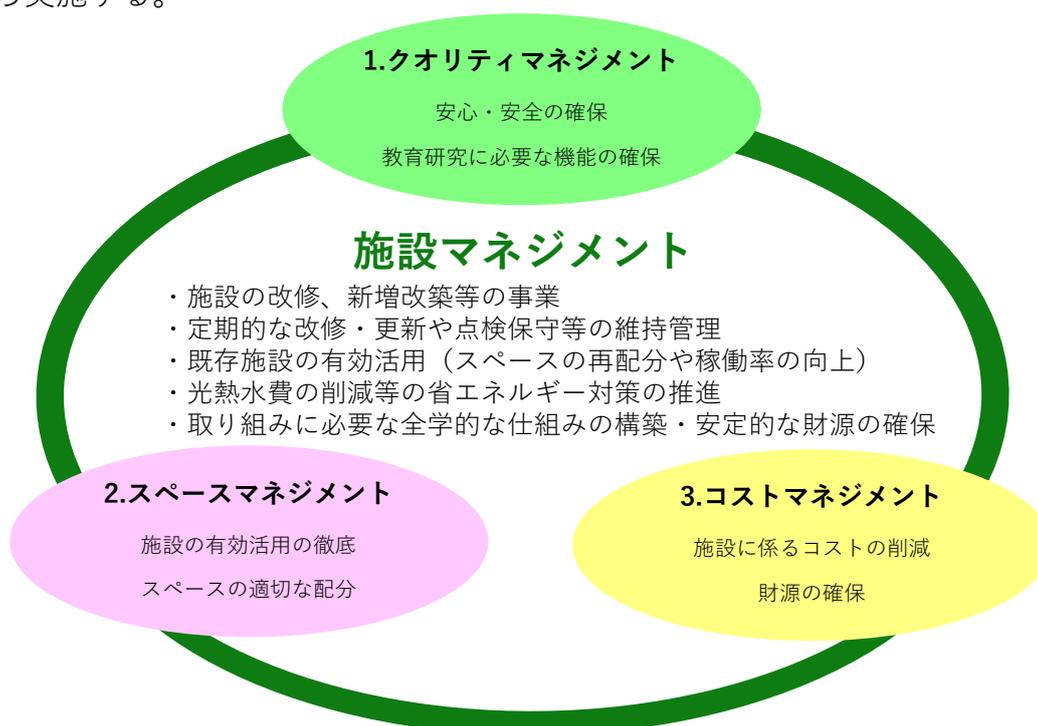
■課題

文部科学省の第5次施設整備5か年計画では今後、求められる大学の施設整備の方向性としてキャンパス全体を「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」とする実現に向けた取り組みが求められている。「産業界との共創」、「教育研究の機能強化」、「地方公共団体との共創」が挙げられているが、これらを推し進めるためには重要なプロジェクトに対応する新たなスペースの需要が今後、高まることが想定される。

国の維持管理予算が減少している厳しい状況の中で、こうした需要に対応するためには新たな施設の新増築だけでは膨大なライフサイクルコストが将来の大きな負担となるため、新増築の抑制を図る上でも本学の保有施設の集約化や減築及びスペースの再配分を行い、既存施設を有効活用する体制・仕組みの構築が重要である。

■内容

クオリティ・スペース・コストの3つ視点から検討を行い、総合的なバランスを図りながら実施する。



05-2 施設マネジメントの推進

■取組方針

1. クオリティマネジメント

- 安心・安全の確保では建築基準法に基づく定期点検を始め、日常巡回点検、安全衛生パトロール等を実施した際に得られた具体的な施設の状況・診断結果（施設データ）情報を一元化して収集し、緊急性の判断、予防保全計画の策定及び施設整備計画の策定を円滑に行えるよう推進する。
- 教育研究に必要な機能の確保では新增築・改修工事後に施設満足度調査を引き続き実施し、適切な施設が提供・活用されているかの点検評価を行う。
- 新たな教育研究活動に伴う施設の要望については、それらのデータを活用し、利用者との十分なヒアリングを行い、最小限の投資によって最大の効果をあげる取り組みを推進する。

2. スペースマネジメント

- 施設の有効活用の徹底や教育研究に必要な機能の確保では、共同利用スペースを捻出するため、既存のスペース利用状況について実態調査を引き続き実施する。結果については施設・環境計画専門部会をはじめ、施設に関する委員会等に報告を行い、再配分に向けた取り組みを推進する。
- 再配分については大学の強みをさらに伸ばすための重点的スペースや共創拠点を推進するうえで重要なプロジェクトに対応するスペースに優先的に配分することを検討する。
- スペースチャージ制度についても、実態調査の結果を踏まえて対象範囲の拡大に向けて準備を進める。
- スペースチャージ制度の実効性を上げるためにも徴収した料金の用途を目的に合わせ明確にすることや料金の改定もあわせて検討を進める。

3. コストマネジメント

- 施設に係るコストの削減や財源の確保においては、大学の保有施設を最大限に有効活用するために新增築を極力抑制しながら施設総量の最適化（トリアージ）を推進する。
- 老朽化の進んだ研究施設、職員宿舎及び看護師宿舎などは時代の移り変わりと共にニーズも変化していることから今後、効率的な維持管理を推進するため廃止や集約を視野に入れ検討する。
- 維持管理費の確保ではスペースチャージ、外部貸付及び定期借地権使用料など徴収料の用途を維持管理費に充てるなど予算の明確化を検討する。
- 大学病院では2021年度より運用している管理一体型ESCO事業を軸に、引き続きエネルギー使用量のモニタリングや管理を行い、省エネルギー推進を促進し、コストダウンを図る。

05-3 省エネルギーの推進

■現状

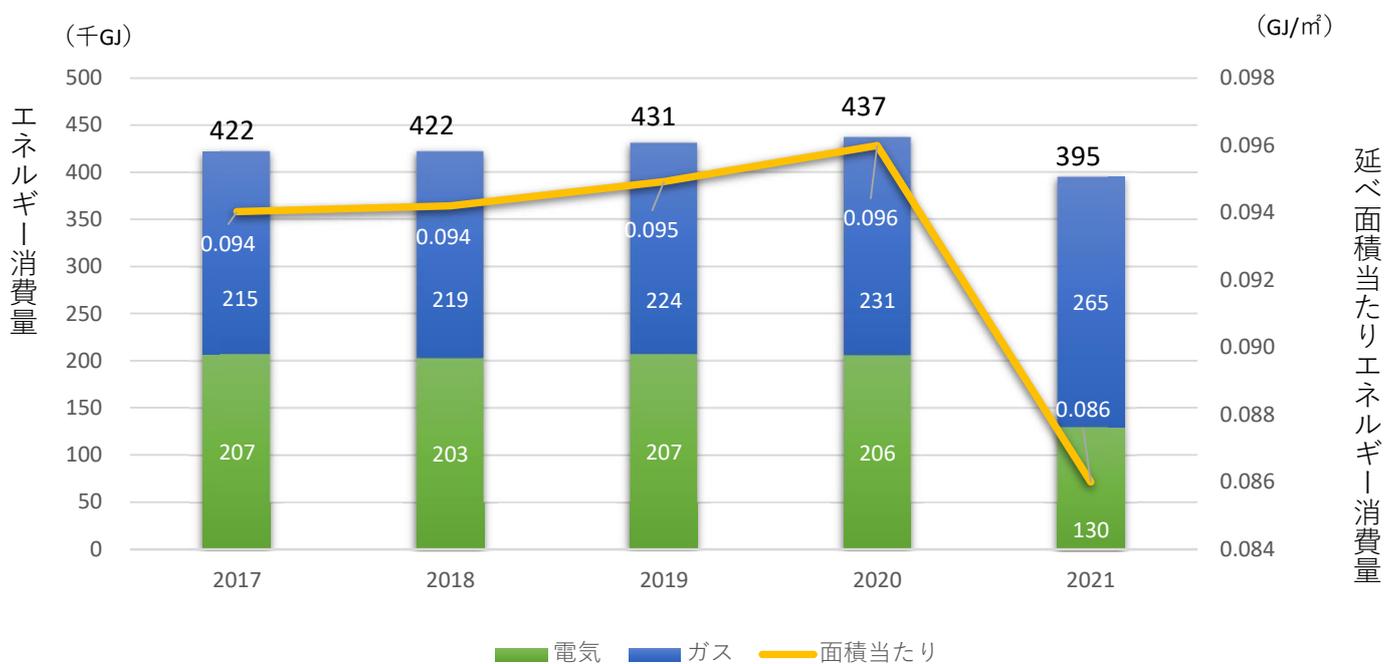
- 2021年度の電力、ガスの総エネルギー消費量は395千GJ（前年度比9.6%減少）。二酸化炭素ガスの排出量は19,521トン（前年度比13.7%減少）である。エネルギー消費量、二酸化炭素ガス排出量が減少した要因は、2021年度から開始したE S C O事業により、コージェネレーションシステム、高効率ボイラー、LED照明器具等の省エネ機器導入によるものである。
- エネルギー構成比（2021年度）は電力33%、ガス67%。ガスの割合が高いのは、常用発電機であるコージェネレーションシステムの燃料にガスを使用しているためである。
- 太陽光発電設備（発電容量30kW×1基）
2021年度の発電量は27千kWhで全体電気使用量の0.12%である。また、太陽光発電による二酸化炭素ガスの削減量は13トンである。

■課題

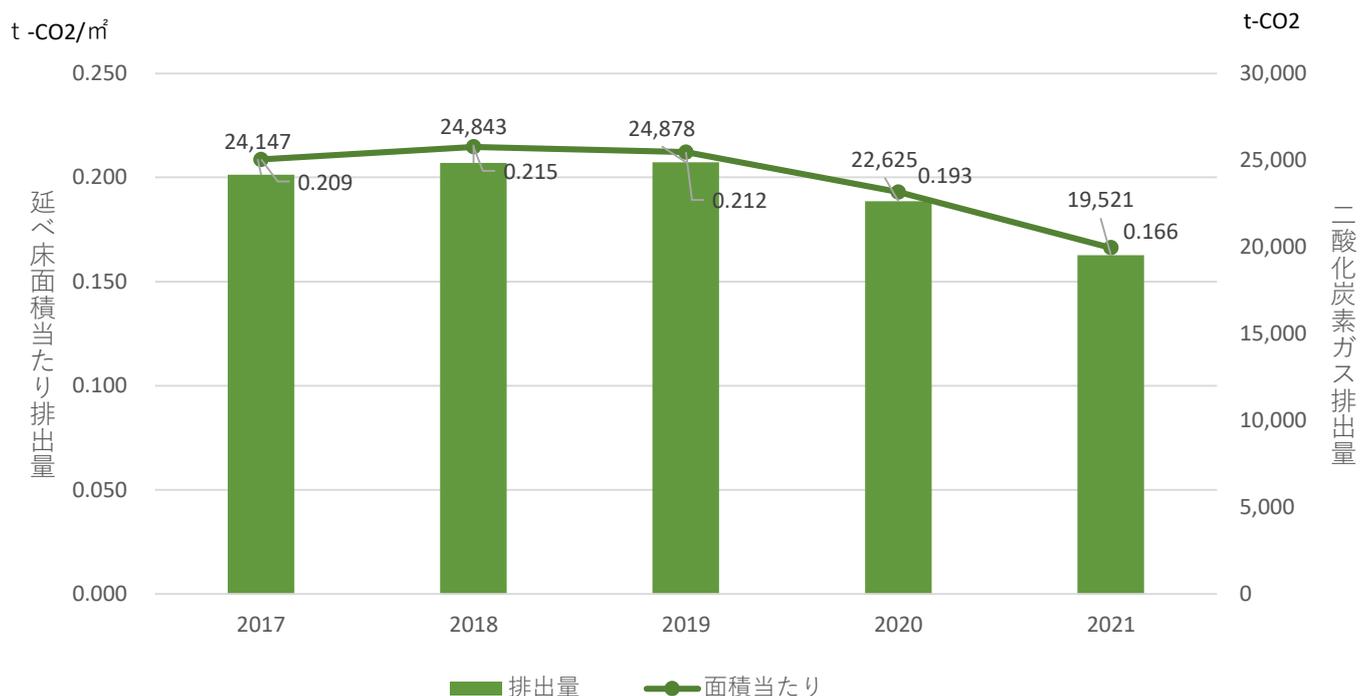
- エネルギー消費量の低減は引き続きエネルギー使用状況の公開と省エネ意識の啓発を継続していくことが重要である。
- 温室効果ガスの排出量については、政府が示した地球温暖化対策計画（令和3年10月22日閣議決定）において、2030年度までに国全体で2013年度比46%削減するとともに、部門ごとに目標値を定めており、国立大学法人等が属する業務その他部門においては、2013年度比で51%削減が求められており、さらなる省エネ化を促進していくことが重要である。
- カーボンニュートラルに向けた取組については、政府が掲げる2050年までの実現に向けて、ゼロカーボンキャンパスに向けたロードマップの作成が課題である。建物設備の定期更新年を定め、各時代のトップランナー機器への更新、新築・改築ならびに大規模改修時には建物性能のZEB基準を計画し、エネルギー消費量削減を図る。また、省エネに関するだけでなく、太陽光発電設備等の創エネルギーに関する取組やSDGsのエネルギー・環境保全に関連した目標への取組を推進していく必要がある。

05-3 省エネルギーの推進

■総エネルギー消費量推移



■二酸化炭素ガス排出量推移



職員宿舎【緑が丘団地】

職員宿舎【緑が丘団地】概要

団地名	緑が丘（職員宿舎）
敷地面積	26,953㎡
建築面積	2,934㎡
延べ床面積	14,737㎡
棟数	7
用途地域	第1種中高層住居専用地域
学生数	—
教職員数	—

本学の職員宿舎は旭川医科大学開学にあわせて教職員用宿舎として1973年より1980年にかけて建設された。

当時は12棟所有していたが、2度の譲渡を経て現在では7棟の所有となっている。

敷地周辺は小学校及び中学校等の教育施設が立地しており、勉学には良好な環境である。

職員宿舎配置図



* 建物番号は文科省「施設実態報告」を準用

- | | |
|----------|------------|
| 1 職員宿舎A棟 | 6 職員宿舎502棟 |
| 2 職員宿舎B棟 | 7 職員宿舎503棟 |
| 3 職員宿舎C棟 | |
| 4 職員宿舎D棟 | |
| 5 職員宿舎E棟 | |

■施設の概要

1	職員宿舎A棟	2	職員宿舎B棟	3	職員宿舎C棟
					
建築年	1,973年	建築年	1,973年	建築年	1,974年
経年	49年	経年	49年	経年	48年
構造	RC 5	構造	RC 5	構造	RC 5
床面積	1,604 m ²	床面積	1,788 m ²	床面積	2,409 m ²
4	職員宿舎D棟	5	職員宿舎E棟	6	職員宿舎502棟
					
建築年	1,974年	建築年	1,975年	建築年	1,976年
経年	48年	経年	47年	経年	46年
構造	RC 5	構造	RC 5	構造	RC 5
床面積	1,203 m ²	床面積	2,103 m ²	床面積	2,815 m ²
7	職員宿舎503棟				
					
建築年	1,974年				
経年	46年				
構造	RC 5				
床面積	2,815 m ²				

■現状

- ・建物は最も古いもので1973年の新営より49年が経過しており、老朽化が著しい状況となっている。また、現在の入居率は10%程度となっている。

■利活用計画

- ・職員宿舎の存続については2022年度11月役員会で廃止の意向が決定されたことに伴い、敷地及び建物の売却を推進する。

国立大学法人
旭川医科大学

National University Corporation
Asahikawa Medical University

[企画・編集] _____
施設・環境計画専門部会

[発行年月] _____
2023年3月

[編集担当]
旭川医科大学事務局施設課
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1-1-1
Tel 0166-68-2172
E-mail : sis-kikaku@jimu.asahikawa-med.ac.jp
<https://www.asahikawa-med.ac.jp>

本誌は環境配慮のため冊子印刷は行わず、Webで公表します。